

森ノ宮医療大学における英語教育のあゆみ

藤重仁子¹⁾

¹⁾ 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

要 旨

森ノ宮医療大学が2022年4月で創立15周年を迎えると同時に、本学の英語教育も今年で開始から丸15年という節目を迎えた。開学当初と比べると、英語教育や関連する活動は徐々に変化し、また発展してきた。現在では、正規授業に加え、課外講座の開講や海外研修の実施などの活動も行うようになった。本報告では、まず本学の英語のカリキュラムについて、二つ目に授業での取り組みについて、三つ目にクラス編成のためのプレースメントテストの実施とこれまでの成績の変遷について、四つ目に課外授業や活動について紹介し、最後に今後の課題と展望について述べる。

キーワード：英語教育、森ノ宮医療大学

連絡先：藤重 仁子 FUJISHIGE Hitoko

〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16

森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科

はじめに

本学は2022年4月で創立15周年を迎えた。本学では1年次に英語の授業が必修科目であるため、本学の英語教育も開始から丸15年目経過したことになる。開学当初と比べると、英語教育や関連する活動も徐々に変化し、また発展してきた。15周年という節目の年となる今、本学における英語教育のあゆみを振り返り、今後の課題や展望を提起してみたい。

本報告では、まず本学の英語のカリキュラムについて、二つ目に授業での取り組みについて、三つ目にクラス編成のためのプレースメントテストの実施とこれまでの成績の変遷について、四つ目に課外授業や活動について紹介する。そして最後に、課題点と展望について述べる。

1. カリキュラム

本学では、英語の授業は基本的に1, 2年次の配当となっている。¹⁾ 1年次の英語Ⅰ【初級】(前期)と英語Ⅱ【中級】(後期)は必修科目であり、2年次に開講されている英会話と基礎英語演習(共に前期)、医学英語と応用英語演習(共に後期)は選択科目である。²⁾

開学当時と比べると、1年次に英語Ⅰ・Ⅱが必修科目であること、全体的な英語の授業数に変わりはないが、2年次以降の選択科目には科目内容と配当年次に若干の変更が加えられてきた。開学当初、選択科目は2・3年次と2年にわたって開講されていた。2年次前期に英語Ⅲ【上級】、後期に医学英語、3年次前期に英会話Ⅰ、後期に英会話Ⅱと、3年次まで3年間英語関連科目が受講できるようになっていた。

2012年度に選択科目について最初の変更が行われ、医学英語Ⅰは2年次の前期に、医学英語Ⅱと英会話Ⅰは2年次後期に、英会話Ⅱは3年次前期に開講されることになった。全体的な授業数は同じであったが、この時には本学は医療系大学であることを考慮に入れ、英語Ⅲの授業を医学英語に変更することで、医学英語の充実を図った。それにより、それまで半期のみ開講されていた医学英語の授業が、医学英語Ⅰ、医学英語Ⅱとして、合計1年開講されることになった。

さらにその後、選択科目について再度変更が行われ、2018年度から既述したような現行のカリキュラムとなった。主な変更点は、医学英語を半期のみ開講に戻し、さらに英会話も半期のみ開講としたこと、その医学英語と英会話の半期分の代わりに、基礎英語演習と応用英語演習の授業を開講することになったことである。基礎英語演習、応用英語演習では現在TOEIC対策に焦点を当てた授業を実施しているが、後述するように2014年度から課外授業としてTOEIC対策講座をスタートしたこともあり、正規授業内でより幅広い内容の授業が実施できるよう調整したためであった。また、前回の変更時にあえて半期分ほど開講を増やした医学英語Ⅱであったが、履修する学生が減っていたため、授業内容について再検討を要したという背景もあった。

表1 英語のカリキュラム変更

	開学当初		⇒	変更1回目		⇒	変更2回目(現行カリキュラム)	
	必修科目	選択科目		必修科目	選択科目		必修科目	選択科目
1年次前期	英語Ⅰ			英語Ⅰ				
1年次後期	英語Ⅱ			英語Ⅱ				
2年次前期		英語Ⅲ			医学英語Ⅰ		基礎英語演習・英会話	
2年次後期		医学英語			医学英語Ⅱ・英会話Ⅰ		応用英語演習・医学英語*	
3年次前期		英会話Ⅰ			英会話Ⅱ			
3年次後期		英会話Ⅱ						

*鍼灸学科のみ、医学英語は3年次前期配当

2. 授業での取り組み

本学における英語教育の目標は、将来医療従事者として活躍する際に必要な英語基礎力、すなわち患者に対応し、必要な研究動向や情報を収集できる英語力を習得することである。その目標を目指し、各授業でどのような取り組みをしているのかについて紹介したい。

1) 英語Ⅰ【初級】・英語Ⅱ【中級】

1年次の必修科目、英語Ⅰ（前期）と英語Ⅱ（後期）では、総合的なコミュニケーション能力の育成を目標としている。基本的な文法を復習し、単語・熟語・慣用句などの語彙を増やしながら、日常生活で必要とされるスピーキング、リスニング、リーディングのスキルを総合的に習得し、自己表現するために最低限必要なコミュニケーション力を身につけることを目指している。使用教科書は、講読だけでなく、スピーキング、リスニング、ビデオ視聴など様々なアクティビティができる、学生の興味を引く内容のものを選択している。

教科書以外でも、2014年度からは洋書多読も実践してきた。洋書多読とは、簡単なものから難しいものへと段階的に学習者の能力に応じたテキストを読み進めることにより、楽しみながら英語を学べる有効な学習方法のひとつである。辞書を使わず、好きなテキストを選んで読むことが多読の鉄則であるが、授業内で一定の時間を確保したり、図書館の本を活用したりしながら、英語に触れる機会を増やすよう促してきた。コロナの影響等もあり、ここ数年は実施できていないが、頃合いを見てまた再開したいと考えている。

また、本授業では、医学用語の基礎知識を学び、医療の場で役立つと思われる語彙の習得にも取り組んでいる。以前は2年次の医学英語の授業で医学用語について学習していたが、履修しない学生も多いため、必修科目である本授業で1年生全員に医学用語の特徴や構成、語源等について説明し、臓器、筋肉、骨など身体に関する語彙を学習する時間を設けている。

2) 医学英語

臨床の現場で患者とコミュニケーションを図る際に必要であると思われる最低限の表現や語彙の習得を目指している。さらに、医学関連の文献や論文の収集方法や論文の構成を学び、3年次から始まる卒業研究で役立つように、PubMed（アメリカ国立医学図書館が提供している、医学分野の文献情報データベース）から選んだ論文の抄録を日本語に訳したり、スキミングを行ったりしている。

3) 基礎英語演習・応用英語演習

現在は主にTOEIC対策に焦点を当てた授業を実施している。TOEICとは英語によるコミュニケーション能力を測る試験であるが、TOEIC形式の練習問題を解きながら、日常生活で頻出の語彙、熟語、慣用句を確認しつつ、相手と十分意思疎通を図ることのできる英語力の育成を目指している。最低限の目標として、基礎英語演習では500点、応用英語演習では550点を掲げているが、実際はそれ以上のスコアを獲得する学生も増えてきている。

4) 英会話

英語による基本的なコミュニケーション能力を習得することを目指している。英会話の基本的ルールである、主語の存在、語順（主語・動詞・疑問文、疑問詞など）、日本語文を素早く英語化する瞬発力という大事な要素を意識しながら、日常生活の中で最低限必要となる自己表現のための英語力を身につけることを目標としている。現在、設置後4年が経過した学科については順次、ネイティブ講師による

授業を実施している。

3. プレースメントテストによるクラス編成

開学初年度から、1 年次必修科目の英語 I・II では、プレースメントテストを実施し、その成績結果に基づき、習熟度別にクラス編成を行ってきた。理学療法学科、鍼灸学科の 2 学科でスタートした開学当初は、2 学科合同（学生数計約 150 名）で 3 クラスに分けていた。その理由としては、英語担当教員が 3 人いたことに加え、当時は 2 学科のみであったため、学科を超えてクラス編成することで互いに打ち解けるきっかけになれば、と考慮したことが挙げられる。最初の 2 年間のみこのような 3 クラス編成で実施したが、3 年目に英語担当教員が一時的に 2 人になったため、各学科 2 クラス編成に変更した。それ以降は徐々に学科が増えたこともあり、現在に至るまでそのまま各学科 2 クラス編成としている。³⁾

クラス編成のためのプレースメントテストは、開学時から今年度まで毎年同じ試験問題で実施してきたため、学生の入学時の英語力が反映されたものとなっている。これまでの各学科の平均点は表 2 のとおりである。

表 2 プレースメントテスト平均点の変遷（100 点満点換算）

年度 学科	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	
鍼灸	44.1	49.3	48.6	48.5	47.8	49.6	46.3	47.3	44.8	46.8	47.8	45.9	49.1	コロナで 実施なし		50.9	
理学	49.5	57.3	55.9	54.4	52.9	54.6	53.9	54.2	54.7	57.8	58.7	59.1	59.3				59.8
看護					55.3	55.9	55.5	56.7	55.7	58.8	63.1	62.6	62.1				64.4
臨検										57.1	56.6	57.3	56				60.6
作業										50.7	56.7	53.6	54.9				54.6
臨工												53.8	55.4				57.8
放射線																	60.5

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2020 年度、2021 年度はオンライン授業でのスタートとなったため、プレースメントテストは実施できなかった。⁴⁾ ゆえに、診療放射線学科は今年度が初めての実施となった。それ以外の学科については、初年度と今年度の点数をそれぞれ比較すると、いずれも今年度の方が高くなっている。年度により若干の変動を経ってきたが、入学時の学生の英語力のレベルは、いずれの学科も初年度よりも現在の方が全体的に上がっていることが示唆される。

4. 課外授業や活動

既述のような正規カリキュラムの英語の授業に加え、本校では 2014 年度から課外講座を実施してきた。

2013 年秋ごろ、今後医療分野ではますます英語力が必要になるとの前田薫先生（理学療法学科）のご指摘により、学生の英語力強化を目指す新たな試みが開始されることになった。カリキュラム内で英語の授業を増やすことは困難であったため、従来の正規授業に加え、カリキュラム外でも何か実施できることはないかと、小島賢久先生（現森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール）を中心に教職員 5 名ほどで準備委員会を立ち上げ、協議・検討した。⁵⁾ これが現在の国際交流センターの原点である。この委員会で協議をした結果、小島先生と森川卓さん（現森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール）のご提案による海外研修の実施が決定した。また、この海外研修への参加準備も兼ねて、カリキュラム外でも英語講座を開講することが決定し、内容については、TOEIC 対策に焦点を当てるのはどうかと筆者が提案した。

このプロジェクト発動に先立ち、森ノ宮医療大学の英語教育プログラムに Morinomiya English Education Program (MEEP) という名称がつけられた。⁶⁾ 今ではこの名称はすっかり定着しているが、

MEEPとは森ノ宮医療大学での英語教育全般を指す名称であることを明確にしておきたい。課外授業や海外研修などの課外活動のみがMEEPであると誤解されがちなので、ここに改めて明記しておく。

1) 課外講座の開講

2017年3月の海外研修実施を見据えて、2014年度から課外講座を開始した。既述のように、課外講座はTOEIC対策に焦点を置いており、参加は任意である。主に1,2年生を対象にしているが、英語を学びたいと思う本学学生であれば誰でも受講することができる。初年度は週2回6限目に講座を実施という形でスタートした。現在は、通常授業期間中は週1回6限目に講座を、9月と3月にはTOEIC直前に対策講座を開講し、1年間に合計40コマほど授業を実施している。受講希望者は年によって若干の変動があるが、毎年数十名の受講希望者がおり、関心の高さがうかがえる。⁷⁾

TOEICについては、年々取得スコアが上がってきている。課外講座を開始した当初は550点を取得できる学生がなかなか出てこなかったが、年々クリアする学生が増えてきている。2020年度からは、年に2回ほど学内でTOEIC IP（大学や企業が各組織内で実施する、団体受験用のTOEIC）の実施も開始した。⁸⁾今年度に関して言えば、9月に実施した1回目TOEIC IPで550点以上のスコアを取得した学生は6名おり、そのうち3名は700点以上のスコアを取得している。

2) 海外研修の実施

2017年3月のカナダ・エドモントンにあるMacEwan大学での研修を皮切りに、これまで3回ほど海外研修を実施してきた。今年度の2023年3月の研修が4回目となる。海外研修参加も任意であり、実施の都度参加希望者を募集している。1回目のMacEwan大学での研修には14名の参加者があり、学生寮に滞在しながら、午前中は語学の授業を受け、午後は医療関連の授業の受講や関連施設・鍼灸学科教授の施術見学などを体験した。2018年3月の2回目の研修先はオーストラリア・パースにあるCurtin大学で、参加者は9名であった。この時は現地の家庭に滞在しながら、1回目と同様に語学レッスンや医療に関連する講座を受講し、医療施設などを見学した。2019年3月の3回目の研修先はオーストラリア・シドニーにあるSydney大学であった。参加者は4名で、ホテルに滞在し、大学やりハビリテーション病院、基礎医学の研究施設を見学したり講義を受けたりした。2020年3月の4回目の研修は、9名が参加し、2回目と同じオーストラリアのCurtin大学に行く予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、出発予定日1週間前に、急ぎよ中止となった。それ以降2年ほど実施できなかったが、今年度は3年ぶりに実施できる運びとなった。改めて4回目となる今回の研修の滞在先はオーストラリア・メルボルン近郊にあるLa Trobe大学で、2023年3月に参加者12名で旅立つ予定である。⁹⁾

3) 海外研修補助金対象者

海外研修については、TOEICのスコアを含む所定の条件をクリアすれば、参加費用の一部に補助金が支給されることになっている。¹⁰⁾最大で参加費の半額分の補助金が支給されるが、徐々に該当者が増えてきている。海外研修の補助金半額を獲得した学生は、1回目は2名、2回目は該当者なし、3回目は2名、中止になったが2020年度の研修では6名、そして今年度の4回目の研修では7名となっている。

表3 開学初年度から現在までの英語の授業や関連する活動の変遷

2007	2 学科 (鍼灸、理学療法学科) (英語 I・II は 3 クラスで実施)
2008	2 学科 (3 クラス)
2009	2 学科 (各 2 クラス)
2010	2 学科 (各 2 クラス)
2011	4 月：3 学科に (看護学科増設) (各 2 クラス)。
2012	3 学科 (各 2 クラス)
2013	3 学科 (各 2 クラス)。MEEP の名称がつく。
2014	3 学科 (各 2 クラス)。課外授業開始、多読開始
2015	3 学科 (各 2 クラス)
2016	4 月：5 学科に (作業療法、臨床検査学科増設) (各 2 クラス)。
2017	3 月：初めての海外研修 (カナダ・エドモントン、MacEwan 大学、参加者：14 名)、森川卓 さん (ウェルランゲージスクール)、藤重引率。 5 学科 (各 2 クラス)
2018	3 月：海外研修 2 回目 (オーストラリア・パース、Curtin 大学、参加者：9 名) 工藤慎太郎先生 (理 学) 引率。 4 月：6 学科に (臨床工学科増設) (各 2 クラス)。
2019	3 月：海外研修 3 回目 (オーストラリア・シドニー、Sydney 大学、参加者：4 名)、前田薫先生 (理 学) 引率。
2020	3 月：海外研修 4 回目の予定 (オーストラリア・パース、Curtin 大学参加予定者：9 名) が コロナの影響により中止。辻義弘先生 (臨工) と藤重が引率予定だった。 4 月：7 学科に (診療放射線学科増設) (各 2 クラス)。コロナの影響で授業がオンラインになり、 プレースメントテスト実施できず。英語の授業は前期、後期ともほぼオンラインで実施。 12 月：TOEIC IP テスト実施開始。
2021	7 学科 (各 2 クラス)、コロナの影響で、プレースメントテスト実施できず。前期の授業はオ ンラインでスタートしたが、のちに対面授業に。
2022	7 学科 (各 2 クラス)。3 年ぶりにプレースメントテストを実施し、クラス編成。
2023	3 月：海外研修 4 回 (オーストラリア・メルボルン郊外、La Trobe 大学、参加予定者：13 名) 7 学科 (各 2 クラス)

5. 課題と今後の展望

これまで述べたように、本学における英語教育は開学時以来、徐々に発展してきた。正規の授業数こそ増えてはいないが、カリキュラムを変更することで本学の学生に適した授業内容になるよう工夫したり、課外講座を開講することで英語を学習する機会を増やしたりしてきた。海外研修の実施や補助金支給制度などを設けたことで、開学当初と比べると、学生の英語学習に対するモチベーションも高まったのではないかとと思われる。¹¹⁾

一方、いくつか課題点もある。まず一つ目は、習熟度別のクラス編成を行っても、英語は入学時における実力がそれぞれ異なるため、同一クラス内でも英語力に差があることである。また、英語力だけでなく、英語学習意欲や好き嫌いについても差があるため、クラス全員の学習意欲を高め、積極的に授業に参加するような授業が展開できるような工夫が必要となる。クラス数を増やすことは難しいため、2クラス編成の枠組みの中で、各クラス全員の学習意欲と英語力を高める授業が展開できるよう、さらなる改善に努めたい。

二つ目は、2年次に英語関連の選択科目を履修する学生が年々減っていることである。開学したばかりの頃は、学年の少なくとも半分以上 (学科によっては、ほぼ全員) がいずれかの英語の選択科目を履修していたが、現在では全体的に履修者が減少傾向にある。¹²⁾ キャップ制度や履修を優先されるべき他の選択科目があるなど、カリキュラム上の理由もあるようだが、非常に残念である。選択科目の履修者を増やすことは今後の課題である。

三つ目は、課外講座を開講しているとはいえ、正規カリキュラムの英語の授業と合わせても授業数が

少なく、英語の学習時間は限られていることである。高校ではほぼ毎日英語の授業がある学校も多いと思うが、本学に限らず他大学でも語学専攻などでない限り、大学では英語の授業数は高校時に比べると通常は少なくなる。もとより語学力を維持するには授業内だけでは学習時間は足りないため、授業内では自主学習のための手段やインターネット活用法についての情報を提供し、自ら学習を続けることができるような意識・習慣付けをすることも大切であると考えている。

プレースメントテストやTOEICスコアの結果が示しているように、本学学生の英語力は、入学時・入学後ともに全体的にレベルアップしている。大学の規模が大きくなるにつれ、優秀な学生が増えてきたと推測され、大変喜ばしいことである。今後もこのような傾向が続けばより高度な内容の授業展開ができるようになり、全体的な英語力のレベルアップにつながるのではないかと考えている。

もちろん世界の言語は英語だけという訳ではなく、医療の場でも必要なのは英語だけではないが、英語が世界の共通言語であることに間違いはない。グローバル化が進んだ現代社会においては、コミュニケーションを図る際にも最先端の医学領域の研究動向や情報を得る際にも、英語は必要不可欠となっている。ただ、あくまでも言語はツールであり、それを使って何をするか、何を伝えるかが大切である。本学の学生は、そのような大切な「何か」を医療の知識や技術として身につけて、卒業していく。その知識や技術を英語というツールを介してさらに活用し、国内外問わず多様な場所で活躍できる医療従事者になってもらいたいと願う。¹³⁾ 言語はその必要性が出てきたときに現場で身につけ、上達していくものだと思うが、大学在学中にその基礎を固め、将来役に立つ英語教育を実践していきたい。

註)

- 1) 現在のカリキュラムでは、鍼灸学科のみ、医学英語の配当が3年次前期となっている。
- 2) 看護学科で養護教諭免許、鍼灸学科で教諭免許の取得を目指す学生は、英会話は必修科目となっている。
- 3) 英語担当教員は、開学当時3人いたが、非常勤講師の先生1名が3年目にお辞めになられ、教員が2人となったため、3年目からは各学科2クラス編成とすることになった。さらにその後、もう一人の英語教員が離職されたため、2010年の1年間は筆者一人で全ての英語関連の授業・クラスを受け持った。2011年以降はしばらく、筆者と非常勤講師の先生1名または2名で英語の授業を担当していたが、2017年に長尾晋宏先生が本学に着任されてからは、筆者、長尾先生、非常勤講師の先生1名という3名体制で授業を担当している。
- 4) 2020年度、2021年度は学籍番号によるクラス編成を行った。
- 5) MEEP準備会議（平成25年10月7日）の記録より。
- 6) 2013年7月までにはMEEPという名称が決定していた。筆者は、この名称の発案者は前田先生だと記憶しているが、前田先生に確認したところ、覚えておられないとのことだった。
- 7) 課外講座を開始した2014年度は41名の受講申し込みがあった。申込者数の推移は以下の通りである。2020年度以降はコロナの影響で若干受講希望者が減少している。2021年度は講座自体が通常通り実施できず、授業数は平年の半分となった。本年2022年度の申し込み者は27名ほどであった（表4）。

表4 課外講座申込者数

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
42	52	50	44	76	59	37	10	27

ただし、実際に最後まで講座に出席する学生は徐々に減少する傾向がある。

- 8) IPテストのIPとはInstitutional Programを意味し、大学や企業が主催者になり、TOEICの団体受験を実施する試験のことである。従来型のTOEICよりも受験料が安く、実施場所も各組織となるため、受験しやすいことがメリットである。

- 9) 本稿執筆時点。2020年度までの研修先の決定や様々な手続きは森川卓さんを中心に学生支援室（当時）の方々が、今年度の研修からは企画課の桑島理絵さん、岸川靖夫さん、会計課の鏑木健洋さんが実施に向けて様々な準備をしてくださった。感謝申し上げたい。
- 10) 英語学習へのモチベーションを上げるためにこのような補助金制度を設けてきた。海外研修の補助金取得条件は少しずつ変更されてきたが、本年2022年度に入学した1年生に対する条件は表5の通りとなっている。

表5 海外研修補助金取得条件（2022年度入学者対象）

条件	補助金額	その他
1. TOEICスコア600点以上かつ、2年次の選択科目を2科目以上履修・出席率50%	海外研修費用の半額補助	・TOEICを年2回受験
2. TOEICスコア550点以上かつ、英語I・英語IIでともに「優」を取得	海外研修費用の半額補助	・2年次の選択科目を2科目以上履修・単位取得 ・TOEICを年2回受験
3. TOEICスコア550点以上かつ、1年次のTOEIC講座出席率50%以上	海外研修費用の半額補助	・2年次の選択科目を2科目以上履修・単位取得 ・TOEICを年2回受験
4. TOEICスコア500点以上かつ、1年次のTOEIC講座出席率50%以上	100,000円	・2年次の選択科目を2科目以上履修・単位取得 ・TOEICを年2回受験
5. TOEICスコア700点以上	50,000円	

TOEIC受験料についても、課外講座への出席率の条件をクリア、または選択科目を履修することにより、一部補助金が支給されている。

- 11) 教員側の状況としては、2017年4月に長尾晋宏先生が着任されて以来、常勤講師2名体制となったことで、学科の増設による授業数の増加にも対応することができ、また授業運営や内容などについて協力して検討することができるようになった。非常に心強く、ありがたいと感じている。
- 12) TOEIC対策を行っている基礎英語演習、応用英語演習は比較的受講者が多いが、医学英語と英会話に関しては受講者が少ない傾向がある。2020年に新設された診療放射線学科だけは例外で、基礎英語演習、英会話の履修率が非常に高く、特に英会話に関しては約7割の学生が履修している。
- 13) 本学の卒業生の中には、卒業後に海外に出て活躍している者もいる。今後も卒業生のさらなる活躍に期待したい。

*本報告を執筆するにあたり、過去の資料や記憶の収集のために色々な方にご協力いただいた。特に、企画課の桑島理絵さん、会計課の鏑木健洋さん、教務課の中澤依利菜さん、森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールの森川卓さん、理学療法学科の前田薫先生にお礼を申し上げます。

English Education at Morinomiya University of Medical Sciences: The History of Fifteen Years, 2007-2022

Hitoko Fujishige ¹⁾

¹⁾ Graduate School of Health Sciences, Morinomiya University of Medical Sciences

Abstract

Morinomiya University of Medical Sciences commemorates its fifteenth anniversary in April 2022. It also means that we have practiced the English education at the university for fifteen years so far. There have been some changes in our English education program since the first year of the university, such as curriculum changes and introduction of new activities. In addition to the regular classes, we now offer extracurricular classes and activities including overseas study trips.

Looking back on the history of fifteen years of our English education program, this report first describes the English curriculum of the university. Second, the practices and activities in the English classes are introduced. Third, the results of the placement tests we have conducted since the first year and, fourth, the extra-curricular activities are presented. Lastly, this report refers to some challenges we are facing and presents prospects for the future with respect to our English education.

Key words: English education, Morinomiya University of Medical Sciences.

